

埼玉偕行会総会

第42回埼玉偕行会総会は平成30年7月1日(日)午前10時から、さいたま市民会館「うらわ」に於いて、ご来賓、講師及び会員等総勢59名の参会をえて開催された。埼玉偕行会会員総数は4月現在56名であるが、そのうち元幹部自衛官の会員数は昨年の38名から40名に増え、総会参加者も昨年を上回る33名となった。旧陸軍関係会員からの継承は完了しており、総会の準備・進行は、全ての業務を元幹部自衛官が担当した。

第1部年次総会は副会長大浦誠哉氏(陸自60)の司会で開始、国旗に対し敬礼、国歌斉唱、戦没者・自衛隊殉職者・物故者に黙祷の後、埼玉偕行会会長柳澤壽昭氏(陸自69)より、最初に「埼玉偕行会の活動目的は偕行社と全く同じであり、将来にわたり偕行社と一体感を持って活動する」旨を強調、資料を配布して、次の内容について説明した。

①偕行社の特性 ②偕行社の根本精神(基本理念) ③偕行社は、明治10年に創設された長い歴史と伝統のある組織であること ④自衛隊部外協力団体における偕行社の位置付けは、陸上自衛隊を主体的に応援(協力・支援)する唯一の団体であること ⑤偕行社の慰霊顕彰及び陸自に対する協力支援の状況 ⑥元幹部自衛官の偕行社会員としての意義 ⑦解決

すべき自衛隊・陸上自衛隊の大きな課題に対する偕行社の貢献 ⑧偕行社は、自衛隊部外協力団体の中でも最も諸条件に恵まれた将来性のある夢と希望の持てる組織であること。

最後に、埼玉偕行会元幹部自衛官会員数は、昨年度の東京都を抜いて全国トップとなったが、今後も入会促進に努力することが重要であると締めくくった。

続いて副会長兼事務局長小林武一(陸自64)から、平成29年度の会務・会計報告並びに平成30年度の新役員を紹介し総会が終了した。

第2部記念講演は10時50分から講師東部方面総監部幕僚長兼朝霞駐屯地司令中野義久陸将補から「国際情勢と我が国の防衛」と題して約1時間プロジェクトを活用し豊富な資料をもとに御自信の体験談を含め、熱弁を振るわれた。

前置きとして東日本大震災等における隊員の表に出ない素晴らしい活躍等を紹介した後、厳しさを増す国外情勢として北朝鮮のミサイルの保有、いわゆる第2列島線への進出をもくろむ中国情勢、ウクライナや北方領土周辺におけるロシア情勢等を話された後、特に指揮統制能力の強化、作戦基本部隊の改変、水力機動部隊の整備等、今行われている陸上自衛隊の防衛力整備の現況を分かり易く説明された。

第3部懇親会は、常務理事中村幹生氏

(陸自73)の司会で12時から開始、先ず会長の挨拶のあと、来賓祝辞となり、東部方面総監部幕僚長兼朝霞駐屯地司令陸将補中野義久様、偕行社会会長志摩篤様、埼玉地方協力本部部長1等空佐山野正志様、埼玉県隊友会会長浦山山人様からそれぞれ祝辞をいただいた。続いて来賓の偕行社副理事長・振武台連絡会特別相談役深山明敏様の乾杯の音頭で宴会に入り、和氣藹々の中楽しいひと時が過ぎた。特に司会の判断で適宜予告なしの指名による一言スピーチで会場を盛り上げた。

恒例の軍歌演習は、小倉健男氏(陸自61期)と常務理事竹下泰義氏(陸自70)の指揮のもと旧陸軍関係会員全員で「仰げば巍々たる」「航先吉日祭」「血潮と交えし」を歌い、続いて元幹部自衛官による「この国は」「幹部候補生学校校歌」を歌った。

理事内山恵子氏(陸自89・市会議員の)中締めの後、実行委員長小林武一の謝辞をもって14時一連の行事を無事終了した。

お詫びと訂正

『偕行』8月号別冊「花だより」の12頁「振武台」の名称について」の内4行目の「第58期の卒業式に」を削除。

理由は当日が卒業式ではなかったことが読者のご指摘で判明しました。

お詫びして訂正します。